

平成19年度 「心豊かでたくましい子どもを育てるつどい」から

生徒指導総合連携推進事業の取り組みから(川北町)

11月5日(月)午後、川北町文化センターにて、小松教育事務所管内3市1町の関係者約230人が実践報告やパネルディスカッションを通して教育への理解を深めました。特に、川北町からは2年間に渡る「生徒指導総合連携推進事業」の取組から川北中学校の木下浩明教諭を中心として実践が紹介されました。「あいさつ運動」「読書活動」「プラタプ連携」「縦割り活動」など保育所から中学校までのネットワーク化がその特色でした。また、参加者の中から「すばらしい太鼓の実演に感動し胸が熱くなり、涙が出てきました」との声も頂きました。



講師 澤井 弘氏

パネル討論で教育の現状を知る



元金沢市教育センター長の澤井弘氏から多くの示唆を頂きました。

- ①基本的な生活習慣の確立の大切さ
- ②話す・聞くにおける言葉づかいの大切さ
- ③あいさつの大切さなど 子育てを見つめ直す機会となりました。



- ※加賀市PTA連合会 山口 美幸 (保護者)
☆携帯電話の問題性について考えていきたい
- ※能美市PTA連合会 吉川 香里 (保護者)
☆食育の大切さを多くの人たちに伝えたい
- ※川北町手取亢龍太鼓 田中 秀夫 (指導者)
☆太鼓が好きで集まる仲間を育てていきたい
- ※小松市立中海中学校 辻 泰樹 (教員)
☆地域との双方向のふれあいを大切にしていきたい
- ※コーディネーター 高崎安広 (指導主事)

- ★参加者からのご意見
- ※変わったのはおとな
- ◆携帯電話やパソコンを通じた文字によるコミュニケーションの問題点を知りました。
- ◆今の子どもたちは、面と向かって言葉や態度で相手に気持ちや意見を言うことが不足しているのだとつくづく思います。
- ◆何か一生懸命に打ち込める子どもを育てていくことは、私たち大人の大切な使命だと思います。
- ◆保護者と先生方の風通しを良くしていきたいですね。親にも先生の中にも温度差があるような気がします。なるべく縮めていきたいです。
- ◆川北町の皆さんが総力をあげて子どもたちを育てていく姿勢を発表から感じることができました。
- ◆顔を見て話したり、聞いたりすることが基本ですね。